

輝けきくち

青少年育成推進員だより

先進地視察研修に参加して

8月23・24日、理事・推進員などの20人が参加し、鹿児島で視察研修を行いました。

1日目の始良市教育委員会訪問では、まず小倉教育長から町村合併の様子、現在の市の現状および教育行政としての在り方などを話していただきました。

次に、宇井指導主事から青少年育成市民会議の取り組みを中心に話していただきました。特に印象に残ったのは、始良市の「子育て基本条例」で、「子育て・人づくりは、明日の社会をつくる」という言葉でした。市民一人一人がそれぞれの立場で子育て・人づくりを協働で行う、なんと素晴らしい実践だろうかと思いを感銘を受けました。また、「始良市子育て手帳」(下欄参照)は、対象年齢の家庭に配布することのこと。これらの取り組みは、鹿児島島の風土が生んだ文化だとも感じました。



始良市教育委員会にて

問い合わせ先
菊池市教育委員会
生涯学習課内
☎0968(25)7232

このように、社会全体による協働の子育て・人づくりを目指した始良市の取り組みのルーツは、一朝一夕に出来上がったものではない奥深さを学びました。

※郷中教育とは
薩摩藩独特の教育組織です。地域の武士集団を郷中といい、二才頭の統率の下で先輩が後輩を指導して、青少年が自主的に心身を練成しました。(二才頭→二才組→稚児頭→長稚児→小稚児)

研修委員長 宮川 淳一

「始良市子育て手帳」の紹介



始良市子育て手帳

① 幼児期編 「親の笑顔が子どもの笑顔をつくる」

子どもを育て、その成長を見守ることは根気のいることです。大きな喜びや楽しみをもたらすものです。肩の力を抜き、親も子どもとともに学び、みんなで、楽しみながら子育てをしましょう。

② 小学校下学年編 「家庭を「子どもの安全基地」に」

行きたい学校、帰りたい家庭、住みたい地域に。子どもたちは、社会の「宝」であり、次代を創り出していく存在です。いつの時代も、子どもたちの「はじける笑顔」が、世の中を明るく、和やかに包み込んでくれます。

先進地研修の感想

○郷土を愛する意識の高さを感じました。ふるさとを愛し、夢と志をもって社会に貢献する心を育む取り組みに感銘を受けました。

理事 徳永 恵子

○始良市では、児童数が減少している小規模校の統廃合計画は進めず、存続方法を検討し地域の活性化を目指されている。大いに参考になる研修でした。

推進員 黒田 浩一郎

○先輩が後輩を指導し面倒を見て、次代を担う青少年の育成に努める精神や、教育方針に感動しました。

理事 森 隆博



西郷南洲墓地

第8回 菊池ふるさとかるた

ち 稚児・遷宮

神楽も伝わる
赤星天満宮



赤星天満宮 (下赤星)

赤星天満宮では、神楽や25年ごとの遷宮が続けられています。大宰府天満宮の資料に「赤星天満宮(荘園)」が記録されており、平安時代後期に大宰府安楽寺天満宮の荘園となり、大宰府府官の菊池氏の発展の「根拠」になったとされています。



赤星天満宮